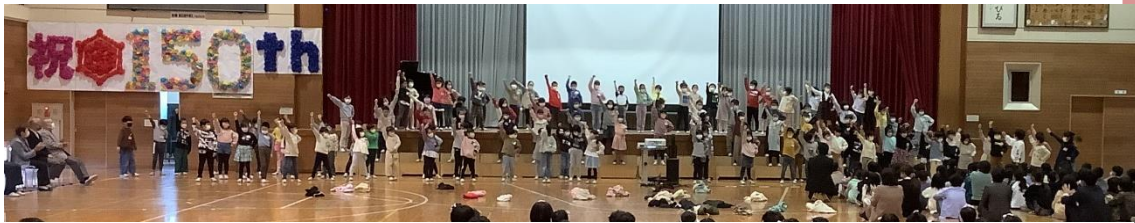




1, 2年生作

亀小広場



1, 2年生によるお祝いパフォーマンス

教育目標
まっすぐ
伸びる

以唇伝心

校長 渋谷 徹

以心伝心、言わぬが花、言うだけ野暮、暗黙の了解・・・。

異国と接していない島国日本では、このような「伝えない」ムラ文化が根付いてきた。ムラ文化の中では、同質性が重んじられるから、伝えなくてよいのだ。一人一人に求められるのは「察する力」である。

しかし、未来を生きていく子供たちが活躍する舞台は、右のようなムラ社会ではない。自分とは異なる考え、異なる価値観をもった人々と協働していくグローバルな社会である。グローバル社会で重んじられるのは、同質性ではなく多様性だ。そして、そこで求められるのは「察する力」ではなく「伝える力」である。多様な価値観をもつ人々と考えを伝え合い、合意形成をしたり課題解決をしたりする力が必要となるのである。

数年前、タイのインターナショナルスクールに通う日本人高校生が、こんな一文を新聞に投書していた。

「議論に慣れない私は、他の人の意見を聞くことしかできず、もどかしい思いをしたまま終わってしまった。しかし、学校で黙っている『いいもの』として扱われてしまう。」この高校生がタイの授業で受けた衝撃である。

アメリカにはこんな諺がある。

The squeaky wheel gets the grease. (きしむ車輪は油をもらえぬ。黙っていたら伝わらないのだ。「いいもの」として扱われてしまうのだ。グローバル社会で生きていく子供たちに必要なのは、心を以て心に伝える以心伝心ではなく、唇を以て心に伝える以唇伝心である。だからこそ、亀田小学校では「挑む」「伝える」「高め合う」という三つの力を子供たちに育てている。

十一月二十六日に行われた「亀田小学校一五〇歳のお誕生日会」では、子供たちの「伝える」姿の一端を見ていただいた。学級閉鎖が相次ぐ中、お誕生日会に向けて精一杯の準備をしてきた子供たちに拍手を送りたい。しかし、あれはまだまだ成長過程の姿に過ぎない。亀っ子たちの「伝える力」はまだまだ伸びる。